

## これまでも、これからも地域を守る防災拠点 ～20周年を迎えた石井地区河川防災ステーション～

まつ さか こう じ  
松 坂 幸 二\*

### 1. はじめに

国土交通省は、完成から一定期間経過した治水施設について、地域の方々と、その生い立ちを振り返り、果たしてきた役割や地域における河川事業や水害の歴史について再確認していただく、「アニバーサリープロジェクト」を推進している。

昨年、徳島県の石井地区河川防災ステーションが20周年を迎え、アニバーサリープロジェクトの一環として、各種関連イベントを実施したので紹介する。

### 2. 石井地区河川防災ステーションの概要

石井地区河川防災ステーションは、建設省（現国土交通省）と地元石井町との共同事業により、平成6年度から施工が開始され、平成9年9月6日に竣工した。



写真-1 石井地区河川防災ステーション

#### 1) 石井地区河川防災ステーションの設備について

設備としては大きく次の3つの施設に分類されている。

##### (1) 水防資材の備蓄

河川防災ステーションでは、水防活動に必要な資材を、大量に備蓄している。

- 土砂・・・・・・・・・・約60,000m<sup>3</sup>

- 割石・・・・・・・・・・約4,000m<sup>3</sup>
- 大型ブロック・・・・・・・・800個
- 竹、木・・・・・・・・・・約400本

#### (2) ヘリポート

洪水や地震等により、道路や橋などが通行不能となった場合、迅速な救援物資（医薬品、食料品等）の輸送や、負傷者等の救助等が可能となるよう、ヘリコプターの発着場を整備している。

#### (3) 防災センター

平常時は、毎週土・日曜日と祝祭日に開館しており、課外教室、休憩所等として気軽に利用できる施設となっている。

災害時には、徳島県石井町水防団員の待機場所、住民の避難場所として利用できる。また、防災センターの設備として、水防団員や避難者への非常用厨房施設やシャワールームを整備している。



写真-2 防災センター

### 3. 石井地区河川防災ステーションの機能

洪水時等に実施する水防活動に必要な資材の備蓄や水防活動の現地対策本部などの役割を果たす「水防拠点」、吉野川の歴史や自然環境など様々な情報

\*国土交通省 四国地方整備局 徳島河川国道事務所 地域連携課長

088-654-9175

を提供する「川の情報発信拠点」、地域の憩いの場であり人や地域の交流の場を提供する「交流拠点」の3つの機能を柱としている。

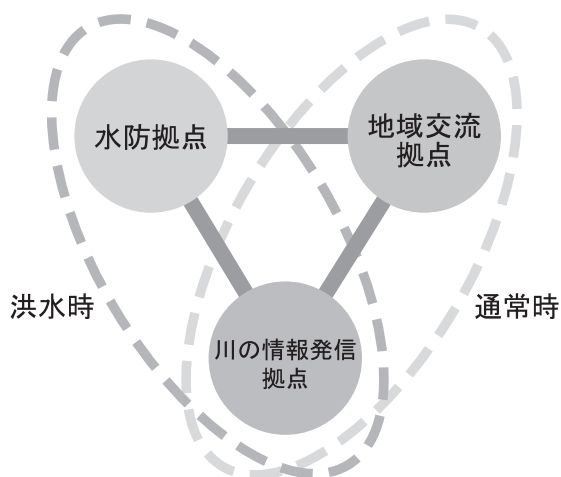


図-1 3つの機能のイメージ

#### 4. 設立20周年イベントの紹介

このように3つの機能を持ち、地域の「水防」「情報発信」「交流」の拠点として役割を果たしてきた石井地区河川防災ステーションであるが、20周年を迎えることを機に、今一度、地域の方々にその果たしてきた役割や機能を再認識してもらうことを目的として、各種イベントを平成29年11月23日（木・祝）～12月1日（金）にかけて地元石井町と共同で意見を出しながら開催した。

##### 1) 防災訓練

イベントの第一弾として、平成29年11月23日（木・祝）に地元平島地区自主防災組織による防災訓練が行われ、平島地区の住民が参集訓練を実施した。集合場所である石井地区河川防災ステーションでは、今回は20周年ということで、防災講座、石井町防災士会による災害時の水洗トイレの使い方、炊き出し訓練なども行われた。

参加者から「万一に備えて、これからも防災についての知識を、もっと高めたい」との感想をもらった。

##### 2) 記念講演

11月25日（土）に防災センター1階の吉野川情報館において、立石恵嗣先生（元徳島県文書館館長）による講演「吉野川の治水と石井町」を開催。石井

地区防災ステーションが位置する石井町と吉野川の歴史の変遷をわかりやすく説明していただいた。



写真-3 立石先生による講演の様子

##### 3) 吉野川歴史絵図展

同日から12月1日（金）まで、防災センター内を利用して、石井町周辺や吉野川の変遷が絵図でわかる吉野川歴史絵図展を開催した。

時代の流れに沿って絵図を配置し、絵図の横には解説文を設置し、歴史絵図の意味がわかるように工夫した。来館された方々は、絵図と説明文を興味深く見比べられていた。

また、石井町周辺の洪水遺跡の位置を図上に示し、歴史絵図に示された堤防や河川の位置関係の今昔が1枚の地図上でわかるように工夫した。

吉野川歴史絵図展は特に好評で、「貴重な絵図を解説付きで見える機会はなかなか無い。またこのような展示会をしてほしい」といった意見をいただき、後日、「石井地区河川防災ステーション」1階において、「吉野川絵図展示コーナー」を設け、1枚ずつ定期的に絵図を変更しながら現在も展示を続けている。



写真-4 1枚1枚、興味深く歴史絵図を見学する参加者

##### 4) 吉野川歴史探訪

絵図展を見ていただいた後に、石井町周辺に今も残る洪水遺跡<sup>(※)</sup>を実際に自分の目で確かめてもらうため、「自転車めぐり歴史探訪」を開催した。

探訪コースに点在する洪水遺跡を、職員自らが説明し、今の私達の暮らしは、先人達による洪水との歴史により成り立っており、これからも受け継がれていかなければならないことを伝えた。

事前に説明を受けなければ、生活道の一部としか思われない道を自転車で走ってもらい、後程、今、走ってきた道が旧堤防の跡地であることを説明すると、『この程度の高さの堤防でも、先人達は命を賭して洪水と闘ってきたのか』と感想をおっしゃって、今度はゆっくりと来た道感慨深い様子でペダルをこいで戻っていただいたのが印象的だった。



写真-5 旧堤防（三ヶ村堤）上を自転車で走る参加者

その後、田中家で当主から城構えの家の工夫点について説明を受けた。特に『母屋は茅葺きで、洪水で水が屋根までくると屋根が浮き上がり、舟の代わりになるように出来ている』との説明には、参加者から『吉野川の洪水の恐ろしさを知っていた先人達の知恵と工夫はすごい』と感心されていた。



写真-6 高い石垣上に家屋を乗せた「城構えの家」（田中家）

写真-7 高地蔵（愛宕地蔵）『お地蔵さんが水に浸かったり流されたりしては申し訳がない』。民衆たちの信仰心が、台座を高くした。



（※）石井町周辺の洪水遺跡…先人たちが洪水と闘ってきた歴史のなかで、水害を軽減するための知恵として造られたもの。

「旧堤防（三ヶ村堤）」、「城構えの家（田中家）」、「高地蔵（愛宕地蔵）」、「印石（産神社）」、など。

## 5) 施設内リニューアル

イベントの開催前並びにイベントに参加いただいた方々の意見を参考に施設内をリニューアルし、来場いただいた方が吉野川により関心を持ってもらえるように工夫した。



写真-8 リニューアル後、来館者でにぎわっている様子

## 5. おわりに

石井地区河川防災ステーションは、平成9年完成以降、幸いにも現地対策本部が設置されるまでの大規模な災害は発生していないが、有事の際には、迅速な復旧活動の拠点となるように施設の維持管理をしっかりと実施し、平常時には地域の交流拠点として、ますます利用促進がはかれるように、情報発信や交流の場の提供を行っていきたく考えている。

今回、20周年を迎えた石井地区河川防災ステーションを様々なイベントを通じて、多くの方々に知っていただくことができた。しかしながら、幅広い世代に利用され、価値ある場所とするためには、さらに工夫を重ね、時にリニューアルし、様々な情報がわかりやすく学べるような魅力ある施設作りを常日頃から考えなくては、時代とともにすぐに陳腐化されてしまうと感じた。そのためには、地域の方々の声を聞き、どのような情報が求められ、何を提供できるのかを継続的に判断することが重要だと再認識した。

今後も、地域の人々の暮らしに深く関われる地域密着型の施設となるように努力していきたい。